

町と日本工業大学との連携事業について

令和5年度 連携事業 全 21 事業

[令和4年度 全21 事業]

令和5年度 連携事業の取組について

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
1	企画 情報財 政政策 課担当	デジタルデバイド事業 デジタルデバイド対策として、すてっぷ宮代で実施しているスマホ・パソコンなんでも相談会と同様の相談会を企画財政課主体で実施。	■令和6年度からの新規事業のため実績なし	・学生と住民との交流機会の創出 ・民間企業との交流
2	町地民 域生活 振興課 担当	町民まつり 町民主体のコミュニティまつり	■町民まつり 日時: 令和5年8月19日(土)、20日(日) 13時～20時30分 場所: 東武動物公園駅西口駅前通り コミュニティセンター進修館周辺 内容: 実行委員会への参加 (広報記録・イベント・安全美化委員会) 学生人数: 約20名 (写真部・撮り貴族・学生環境推進委員会)	町民まつりを支える若い力として実行委員会から期待されており、まつりのさらなる盛り上げにつながる。
3	町地民 域生活 振興課 担当	進修館の修繕について考えよう(進修館オープンカレッジ) テーマを「進修館の修繕について考えよう。」として、進修館オープンカレッジでワークショップを開催。 【共催】 指定管理者: 特定非営利活動法人MCAサポートセンター	■進修館の修繕について考えよう 日時: 令和5年4月1日(土)～令和6年3月31日(日) 内容: 令和4年度のオープンカレッジからの継続事業として、コンクリート建築の劣化調査を実施。 大学教員: 建築学部建築学科 田中章夫 助教	コンクリート建築の劣化調査を継続して実施。また、劣化(雨漏り)箇所の修繕方法の提案をいただいた。
4	町地民 域生活 振興課 担当	進修館ラボ スキップ広場の活用について調査・実践を行う。 【主催】 指定管理者: 特定非営利活動法人MCAサポートセンター	■進修館ラボ スキップ広場の賑わい創出を目的に、令和3年度、4年度の調査結果をベースに、現状の利用状況やベンチ・テントなどを設置した場合の人の動線などの調査を行った。 また、調査結果の発表を進修館オープンカレッジ「スキップ広場に賑わいを！」で行った。 日時: 令和5年4月1日(土)～令和6年3月 大学教員: 建築学部建築学科 木下芳郎 教授 学生人数: 4名	これまでの2年間の調査結果に基づき、スキップ広場に人が滞在(人だまりができる)ためには何が必要か、という観点で動線調査を実施した。調査では、自作の日よけテントを制作し、その設置場所を移動したり、まとまった設置期間を設けることでスキップ広場の利用がどのように変化するかを検証した。 また、この結果をオープンカレッジで市民と共有することで、本調査とは別の視点である「イベント会場としての活用」にも参考となることが期待される。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
5	町民生活振興課担当	動画制作 進修館施設を動画で紹介する。 【主催】 指定管理者: 特定非営利活動法人MCAサポートセンター	■動画制作 大学生の視点から進修館施設を紹介する動画を制作した。 大学教員: 先進工学部情報メディア工学科 松田洋 教授 学生人数: 6名	大学生は進修館を利用することが少ない年代であるため、「自分たちだったらどのように施設を利用するか、その良さをどのように紹介するか」という視点で企画をしていた。 これにより、進修館施設運営にとっても貴重な意見を得ることができた。
6	町民生活振興課担当	アートプロジェクト 進修館をアルバムにする 【共催】 指定管理者: 特定非営利活動法人MCAサポートセンター	■アートプロジェクト 令和3年度に実施した事業の継続。 進修館で撮影された写真を使って、等身大パネルを作成して再現し、記録動画を作成した。 また、制作した動画を、令和6年3月18日(月)～31日(日)にアートプロジェクト「へそたんけん2024」にて上映した。 大学教員: 建築学部建築学科 生活環境デザインコース 勝木祐仁 准教授	進修館の良さを、利用者個人の歴史という視点で表現しており、作品としての高い評価を得ている企画である。 令和5年度には、日本工業大学内の刊行物に「進修館をアルバムにする」の紹介を勝木准教授が寄稿している。
7	環境資源推進課担当	西原自然の森活用事業 西原自然の森の魅力を感じてもらうため、福祉・文化・環境の3つが融合したイベントを実施する。	■西原自然の森フェスタ&すてっぷまつり 竹を使用した竹あそび(竹水鉄砲、竹はしご等)を行った。 学生は、当日の来場者対応等イベント運営を行った。 日時: 令和5年11月12日(日)10時～15時 場所: すてっぷ宮代 参加人数: 100名 学生人数: 1名	イベントの盛り上げに貢献している。学生が関わることで、子供も気軽にイベントスペースに立ち寄れる雰囲気形成することができた。
8	環境資源推進課担当	地球温暖化対策実行計画策定事業 温室効果ガスの削減目標とその他の取り組みを設定し、地球温暖化対策を推進する計画策定を行う。	【新規】 ■宮代町公共施設太陽光発電導入調査 一部調査項目について、日本工業大学の機械工学科棟に設置されている太陽光発電設備の発電量を参考に実施した。	宮代町のより正確な日射量等のデータを調査内容に反映することができた。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
9	子ども支援笑顔課担当	地域みんなで子どもたちの居場所づくり事業① 子どもが孤立しないための居場所づくりを行う人や活動を応援し、地域の人々が主体となった取り組みを広げる。また、学校に通えない児童生徒のため学外の間を整備し、心の居場所や学びの機会を提供する。	■辰新田こども広場 場所: 辰新田集会所 日時 ①4月15日(土)11時～14時 参加人数: 17名 学生人数: 3名 ②5月20日(土)10時30分～14時 参加人数: 30名 学生人数: 3名 ③7月15日(土)10時30分～14時 参加人数: 20名 学生人数: 3名 ④9月16日(土)10時30分～14時 参加人数: 14名 学生人数: 3名 ⑤10月21日(土)10時30分～14時 参加人数: 25名 学生人数: 1名 ⑥11月18日(土)10時30分～14時 参加人数: 15名 学生人数: 2名 ⑦1月20日(土)10時30分～14時 参加人数: 15名 学生人数: 3名 ⑧2月17日(土)10時30分～14時 参加人数: 20名 学生人数: 3名 ■道佛集会所夏休み勉強会 日時: 令和5年7月24日(月)～28日(金)、 8月21日(月)～25日(金) 各13時30分～16時30分 場所: 道佛集会所 参加人数: 延べ50名 学生人数: 10名 ■集まれ子どもたち こどもの居場所で遊ぼう! 日時: 令和5年9月9日(土)10時～14時 場所: すてっぷ宮代 参加人数: 延べ700名 学生人数: 5名	・子どもたちにとって、年齢に近い大学生が遊んでくれることで、自然体で楽しく過ごす時間となった。 ・大学生と宿題ができる場があることで、家庭環境により塾などに通えない家庭の学習支援に繋がった。
10	子育て支援課保育園	保育園のくつ箱制作	【新規】 ■保育園のくつ箱制作 日時: 令和5年9月 場所: みやしろ保育園 参加人数: 18名 学生人数: 12名 大学教員: 建築技術センター 後藤祐樹 助手	・制作を通じて、ものを大切にしようとする気持ちを育むことができる。 ・園児と学生との交流が図られることで、園児のものづくりへの興味が深まる。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
11	健康 高齢 介護 支援 課 担 当	認知症まちづくりミーティング 認知症の方に優しいまちづくりの方法を話し合う場。アイデア出しと実践。	■ミーティングの開催(4月から毎月開催) 内容: ・図書館での認知症パネル展示(2回目) ・日本工業大学での映画会&講演会(11月26日実施) 宮代で共に暮らす映画会・講演会「ぼけますから、よろしくお願いします。」 約200名参加 大学教員: ・建築学部建築学科生活環境デザインコース 野口祐子 教授、勝木祐仁 准教授 ・教育研究推進室 大塚竹郎 課長、三本松陽子 氏、守屋優奈 氏	・町の認知症施策をはじめとした町事業の宣伝の場となっている。 ・認知症の方へ優しいまちづくりを通して、助け合いの精神を広めたい。
12	健康 保健 介護 センター 担 当	献血推進事業 大学構内で献血を実施	■「献血」 第1回 令和5年4月13日(木) 61名 第2回 令和5年4月14日(金) 59名 第3回 令和5年6月5日(月) 67名 第4回 令和5年9月25日(月) 57名 第5回 令和5年10月2日(月) 43名 第6回 令和6年1月17日(水) 44名 第7回 令和6年1月18日(木) 56名 合計387名	学生及び大学職員の参加が見込めるほか、献血について普及啓発が期待できる。
13	産 商 工 観 光 課 担 当	日本工業大学ビジネスプランコンテスト 産学連携起業教育センターが主催する「日本工業大学学生起業家支援プログラムビジネスコンテスト」に町が協賛。	■「第18回ビジネスプランコンテスト」 日時:令和5年10月30日(月) 場所:日本工業大学 学友会館 ・既に学内で選出された8点の優秀なビジネスプランの中から、今後の町の政策や産業振興に役立つことが期待されるビジネスプランの立案者に対して町長賞を授与。 ・町長賞受賞者(プラン名) 伊藤潮里 氏(空き家をリフォームした体験型TRPG "Dactivity") TRPG(テーブルトークロールプレイングゲーム)に空き家・古民家を活用することにより、日本らしさのある世界とすることができ、地域の活性化、インバウンドの獲得を目指す。	プレゼンテーションを行った学生と観覧者(企業)がジョイントし、実際のビジネスに発展する可能性もある。
14	教 育 推 進 課 担 当	学校給食管理運営事業 栄養指導の際に活用する給食アプリの開発・活用	【新規】 ■給食アプリの開発・活用 栄養教諭が小中学校の児童生徒を対象とした栄養指導を行う際に活用する給食アプリを、先進工学部データサイエンス学科荒川教授及び学生に協力いただき、共同開発した。 ゲーム感覚で栄養素等を学ぶことができるアプリを3種類開発し、栄養指導において活用した。 大学教員: 先進工学部データサイエンス学科 荒川俊也 教授	子供たちが興味をもって栄養素を学ぶことができるようになった。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
15	教育 学校推 進課 担当	学力向上推進事業及び キャリア教育事業 児童生徒の学力向上や大 学生のキャリア教育につい て、学生や大学教員と連携 して各事業を行う。	■「教育ボランティア」「職場体験の受入」 教育ボランティアとして学生を受け入れた。 学生人数:須賀中1名	・専門的な視点からの指導と 体験により、児童生徒の学力 の育成を図ることができる。 ・児童生徒一人一人の課題 に応じた、基礎基本の定着を 図ることができる。 ・学生の社会体験・職場体験 を通して、豊かな人間性や社 会性を身につけることに繋がる。
16	教育 学校推 進課 担当	プログラミング教育推進事 業 社会の変化に対応した情報 教育を推進する。	■「プログラミング教育」 総合的な学習の時間を活用し、町内すべての小学校4 ～6年生を対象として、児童に年4～5時間の授業を設 定。主な内容として、小学生でもプログラミングができる ソフト「Scratch(スクラッチ)」を用いてプログラミング的 思考を学んだ。 日時:令和5年6月～令和6年1月 対象:町内の小学校4～6年生、年間4～5時間	・プログラミングの基礎的な知 識や方法について学ぶ機会 を提供することができた。 ・各学年児童の発達段階に 応じて指導計画を修正し、実 施することができた。 (課題) ・プログラミング教育の適切な 実施時期や内容等について 大学、教育委員会、小中学校 で連携・協力し、改善を図る。
17	教育 学校推 進課 推 進 担 当	日工大サイエンスプロジェ クト 小中学校の理科の授業に おいて、大学の施設や設備 を使った専門家による科学 実験を通して、子供たちが 興味をもって、自ら学ぶプロ ジェクトを実施する。	■日工大サイエンスプロジェクト ・中学校の理科の授業の実施 日時:令和6年3月5日(火)、6日(水) 場所:日本工業大学 対象:須賀中、百間中、前原中の2年生 大学教員: 共通教育学群(心理学) 瀧ヶ崎隆司 教授 共通教育学群(物理学) 佐藤杉弥 教授 共通教育学群(物理学) 服部邦彦 教授 基幹工学部応用化学科 佐野健一 教授 基幹工学部電気電子工学科 清水博幸 准教授 基幹工学部電気電子工学科 大田健紘 助教 先端材料技術研究センター 鈴木学 助手 ・小学校の試験実施 対象:百間小学校の6年生 ・日本工業大学の教員による小学校の教員を対象にし た研修の実施 日時:令和5年8月24日(木) 場所:日本工業大学 内容:2学期以降の学習内容を中心とした研修 参加人数:小学校教員14名	理科の授業において、大学 の施設や設備を使った専門 家による科学体験を実施す る。子供たちの理科に対する 興味・関心を高め、理科好き の子供を育成し、自ら学ぶ児 童生徒を育成する。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
18	教育 生涯推 進学進 習課・ スポー ツ振興 担当	子ども大学みやしろ 地域の学校、行政（県町）、企業、市民が連携して、子供（小学校4～6年生）の知的好奇心を満足させる学びの機会を提供する。	■「子ども大学みやしろ」 場所：日本工業大学（全6回の講義のうち下記3回を大学にて実施） 対象：町内在住の小学校4年生～6年生 講義内容：（①～③） ①「振動でまわるプロペラの原理を探る」 日時：令和5年9月3日（日） 講師：先進工学部ロボティクス学科 宮川豊美 教授 ②「子ども大学 SDGs Crafters」 日時：令和5年11月12日（日） 講師：学生環境推進委員会 ③「とことこウサギ」 日時：令和5年11月26日（日） 講師：先進工学部ロボティクス学科 櫛橋康博 准教授 ・令和5年度子ども大学みやしろ実行委員会 学長：先進工学部ロボティクス学科 宮川豊美 教授 実行委員長：共通教育学群 瀧ヶ崎隆司 教授	日常では得ることが難しい分野の学びや体験、交流の機会を提供し、子供たちの学びの意欲の高揚等を促すことができた。
19	教育 生涯推 進学進 習課・ スポー ツ振興 担当	みやしろ大学 宮代町にお住まいのシニア世代の方たちが、健康で心豊かに過ごすための知識や技術を向上促進していただく場。	■「みやしろ大学」 日時：令和6年2月7日（水）10時～11時30分 場所：町立図書館 ホール 講義内容：「身近な地球温暖化対策は、どのくらい効果があるのか考えてみよう」 講師：共通教育学群 八木田浩史 教授	・シニア世代の向学心・知識欲への期待に応え、健康で心豊かな生涯学習活動に寄与する。 ・高齢化に伴い、事業の企画立案や大学運営を担う運営委員が減少している。運営委員の確保や会の在り方については課題。
20	教育 生涯推 進学進 習課・ スポー ツ振興 担当	図書館運営事業 図書館の利用促進を目的に、図書館指定管理者が企画開催する。 【主催】 指定管理者：図書館流通センター	■「日本工業大学特別講演会「雷シイタケと宮代町」 日本工業大学特別講演会として、町民の生涯学習に資するよう、身近な例を挙げ最新の技術などを解説。 日時：令和5年9月10日（日）14時～15時30分 場所：町立図書館 ホール 講師：基幹工学部 電気電子通信工学科 平栗健史 教授	地元大学と公共施設の連携事例となった。

No.	町担当	事業名及び概要	令和5年度の事業実績	事業の効果・課題等
21	教 生 涯 推 進 課 ・ ス ポ ー ツ 振 興 担 当	図書館運営事業 図書館の利用促進を目的に、図書館指定管理者が企画開催する。 【主催】 指定管理者：図書館流通センター	【新規】 ■認知症合同展「あしたのわたしと認知症」 9月の世界アルツハイマー月間を受けて認知症への理解を深めるための合同展。パネル展示や映画上映を実施。 日時：令和5年9月27日（水）～10月1日（日） 9時30分～16時 場所：町立図書館 展示ホール、ホール 大学教員：建築学部建築学科 生活環境デザインコース 野口祐子 教授、勝木祐仁 准教授	町健康介護課、町社会福祉協議会、地元大学との官民学連携事業となった。
22	教 生 涯 推 進 課 ・ ス ポ ー ツ 振 興 担 当	図書館運営事業 図書館の利用促進を目的に、図書館指定管理者が企画開催する。 【主催】 指定管理者：図書館流通センター	■「第29回おとなのための昔話と音楽のつどい」 日本工業大学吹奏楽団（演奏）と町立図書館を拠点に活動を行っている宮代おはなしの会「スウス」（昔話等のお話）のコラボレーションにより毎年度開催している。 日時：令和6年2月25日（日）14時～16時 場所：町立図書館 ホール 演奏：日本工業大学吹奏楽団	地元大学と市民活動団体、公共施設との連携事例となった。

その他の連携

- 防災活動事業（災害時の町指定避難所としての活用）